三重混声合唱団 あんだぁれ70

三重混声合唱団あんだぁれ70通信
2023 年度　春夏号
2023 年 8 月 31 日　発行
発行:三重混声合唱団あんだぁれ 70
編集:広報担当(稲垣,平井,小泉,田中,牧野)
ホームページ:https://andare70.jp

第 11 回演奏会は、県内少年少女合唱団員、ワンステージメンバーと一緒に高らかに歌うことができました。

「世代を越えて共に歌えた喜び ～幸せは小さな願いから」

音楽監督・指揮
馬場浩子

20 年ほど前から、市内の小・中学校におじゃまして校内合唱コンクールの合唱指導に携わっているのですが、コロナ禍になってからも、困難な状況にめげず、共に声を合わせて歌う喜びを味わってきました。ところがコロナ禍になって 3 年目の昨秋・・生徒さんたちの様子がおかしい・・マスクを外してよいと言われても外さない。口を大きく開けなくなったために滑舌がよくない。大きな声も出さないので声帯の動きが鈍く、声に力がない、音域も狭い・・状況は深刻でした。

あああああ、これじゃだめだ・・歌うことを禁じられながら、細々と頑張ってきた小中学生たちが、身心共に疲弊して音楽、合唱から心が離れていっている。形容しがたい危機感に襲われた私の心は重く、この事態に思い悩みました。

丁度その頃、あんだぁれの 11 回目の演奏会プログラミングと時期が重なり、まるで天からのお告げのように「あんだぁれのできることはこれだ !! 」と確信しました。

役員さんたちもこの企画に大賛成してくださって、事は前に進みだしました。結果は私の予想をはるかに超え、県内全域を巻き込んでの大合唱へと繋がっていきました。ここに至るまでには関係者の方々の多大なお力添えがあったからこそ・・ですが、子どもさんたちの澄みきった清らかな歌声と人生の機微を感じさせる大人の声が混じり合う演奏会なんてこれまであったでしょうか・・今更ながら、なんて素敵なことが実現したのでしょうと感慨もひとしおです。子供さんたちのア・カペラ「いかにいます～」を聴きながら、胸熱くなり、不覚にも指揮をしながら涙腺崩壊しました。

これもひとえにあんだぁれの皆さんの心意気の賜だと思います。馬場の無茶ぶりにも、ひょいっ！とのってくださり、好奇心と驚くばかりの行動力、そして団結力があったからこそ、1000 人近い市民、県民の皆様に子供さんたちの現状を周知することができ、更に少年少女の皆さんの素晴らしい歌声を聴いていただける機会になりました。

これからも合唱を通して、繋がる大切さ、音楽の力で通い合える心をもっともっとたくさんの人たちと共有できれば、みんなが幸せになれますね～💖

第 11 回演奏会を終えて

代表代行　**木村哲美**

代表代行の重責を仰せつかり迎えた演奏会は、団員皆さんの積極的で真摯な活動のお陰様で大成功に終わることが出来ました。第 1 ホールの大きなキャパが決まった瞬間から、ホールの大きさが最大のプレッシャーではありましたが、音楽監督の見事なプログラム構成で県内少年少女合唱団員　90 余名との見事な合唱の輪を実現する事ができました。さらに団員皆さんの協賛者募集への積極的な働きかけは、次回以降の演奏会も含めての大きな力となります、感謝申し上げます。来年５月の第 12 回演奏会も団員一人一人の真摯な力を結集し、遊び心のある大人の合唱団として、お客様に楽しんでいただける合唱を目指そうではありませんか！

第 11 回 演 奏 会

時　2023 年7月 23 日
於　四日市市文化会館第一ホール

団員感想

ソプラノ　竹内　晶子

昨年、第11回演奏会は第1ホールで決まったと聞いた時、集客にかなりの不安を抱きましたが、当日舞台に立って殆ど満席に近い客席を見たとき、流石にあんだぁれの集客力は凄いなと感心しました。今回は、コロナを乗り越えて天使の歌声の子供達と一緒に歌えたことが一番の感動でした。特に「believe」は、メロディーは聞いたことがありましたが、歌詞が素敵で歌いながら泣きそうでした。馬場先生はじめ、役員やスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

テノール　加藤　晨

第 11 回定期演奏会も無事終わり、このコロナ禍、初めての第一ホールでの集客はと心配しておりましたが、予想外の集客に、さすが、あんだぁれ。各ステージ共好評でしたが、特に第四ステージの各地の少年少女合唱団とのコラボが好評だった様で、今後、各合唱団において異色とのコラボが流行するのでは。

前日まで、２分間の衣装替えに不安を感じていましたが、無事通過することが出来ました。私は第一回から参加していますが、後、何回参加出来るか楽しみにしています。

テノール　渡邊　良治

演奏会を楽しみに練習を重ねてきたが、７月初旬に突然、足・腰が痛くなり、整形外科に通院。週２回腰にブロック注射をし、痛み止めの薬を飲み、どうにか演奏会当日までに立って歌うことができた。ある程度歌うことができたが、あんだあれ 70 の演奏会でなかったのが残念であった。あんだあれ 70 単独の演奏会をしたかった。毎年毎年コーチが入り、バランスが取れない状態。３人の声が強く、男声と女声のバランスが取れない。コーチは、単独のステージがある。来年は、コーチの入らない単独の演奏会をしたい。

ソプラノ　平山　幹子

コンサートを終えて～気持ちのいい達成感と充実感を得ました。Ⅱステはナイーブな曲だなと思っていましたが、歌詞に綴られた思いを次第に感じ、曲にのめりこんで唄うようになりました。Ⅳステは、少年少女合唱団とのコラボ。新鮮で心が洗われたようで、昔懐かしい日本の四季、風景がよみがえってきました。私は、コーラスを始めて 21 年！ 年月ばかりが経過して上達できませんが、唄える限り唄いたいと思います。これからも練習頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

アルト　尾子　蓉子

第 11 回演奏会は大盛況で終わりました。Colors はノリノリで楽しく歌えました。

中でも一番大好きだった「あなたにできること」は、詩と曲が素晴らしく、平和の尊さをかみしめて、「世界中に沢山の花が咲きますよう！」

少年少女合唱団、ワンステージメンバーとともに総勢 170 名によるステージはわくわくしていました。子どもたちの天使の声に聞きほれ、Beleave は、最後はホロッとなりながら、「あー合唱って素晴らしい!! 」

バス　大嶋　潔

初めて演奏会に参加させて頂きました。5月に楽譜を頂いたとき、不味いタイミングで入ったのか（笑）と不安になりましたが、馬場先生はじめ皆さんの一生懸命な姿に後押しされ、あっという間の３か月でした。

合唱界から遠ざかってほぼ 40 年たった今、このような感動と満足感を与えて頂いた事に大変感謝しています。大変いい演奏会だったと思います。今後も皆さんのパワーとバイタリティーに刺激を受けながら、頑張っていきたいと思います。

バス　西田　正

３年ぶりにコンサートに参加して～コロナの間、３年間休団していた私は、十分な練習・準備もなく、果たして参加して歌うことができるか、不安いっぱいでした。Ⅰステは、周りの皆様に助けられ、Ⅳステは子供たちの混じり気のない歌声に助けられ、歌うことができました。さて、Ⅱステの「あなたにできること」は、歌えば歌うほど、この歌詞の重さに感動しました。『世界が幸せなのは、私が幸せだからです』私も、今年傘寿（80 歳）を迎えます。「あんだあれ」の皆様と、ともに歌い、残る人生を楽しく幸せに生きてゆければと思います。

アルト　北井　悦子

入団のきっかけ、それは今年の春、熟年大学の文化祭で渡された「あんだあれ」のリーフレットにあります。友人の読み違いからぱっと笑顔の輪が広がり、その明るいイメージに吸い寄せられ、この４月入団の運びとなりました。笑顔の絶えない練習風景がそこにあり、メリハリの効いた指導と世界観に学ぶこと多しです。第 11 回定期演奏会、緊張も当然ありましたが、何より、その連帯感に心地よさを覚えながらフィナーレを迎えたときは、達成感に満たされ、幸せな瞬間でありました。

三重県少年少女合唱連盟理事長　川合俊平先生コメント

アンダーレのみなさん　ありがとうございました!

三年余にわたるコロナ禍は、「歌を忘れたカナリアになれ！」ということと同じでした。でも、子どもたちは歌うことをやめませんでした。なのに、発表の場はありません。聴いていただく行事もありません。そんな中で、馬場先生からお誘いをいただきました。果たしてどれ程参加してくれるだろうかとびくびくしながら声かけをしました。なんと次々と参加の申し出があり、「みんな同じ想いだったんだ！」と思わず顔がほころびました。

細かいご配慮をいただき、大人の混声合唱と共演できたことは、素晴らしい経験として生涯心に残ると思います。大勢で声を合わせるこの喜びを体感した子どもたちは幸せだと思います。「ドルチェでいきましょう！」が口癖の名指揮者がいましたが、「大人も子どもも歌で繋がり、アンダーレで行きましょう！」と、馬場先生の声が私には聞こえました。

テノール　故・服部八州宏さんを偲んで

服部八州宏さんが７月 23 日夕刻、亡くなりました。85 歳でした。

６月末にご本人から電話があり「練習に何とか出たいが、酸素吸入しなければならないことになり、歌えなくなった。残念だが７月から休団、演奏会も出られない」と申し出がありました。

そのわずか１か月もたたないうちに亡くなるとはー。あんだぁれの演奏会を見届けるかのように息を引き取り、いかにも「歌うことが生きがい」だった服部さんらしいと偲んでいます。　合掌　　(稲垣範光)

団員の動向（2023.3.以降）

2023.8.1 現在　団員数 56 名　うち休団中４名

【入団】Ｓ鈴木和美、Ａ北井悦子、Ｂ大島潔

【休団】Ｓ鈴木和美、Ａ亀井由美子、Ｔ寺久保敏、Ｂ神田憲明

【退団】Ａ川合佐知子、Ｔ柴田孝之、Ｂ清水節生、Ｔ服部八州宏（逝去）

団員のみなさんへ

★歌う仲間がひとりでも増えるように、お友だちを誘いましょう!!

【今後の予定】

2023.11.23（木・祝）	四日市市合唱祭
2023.11.26（日）	四日市の第九
2024　5.19（日）	第 12 回演奏会

編集後記

第 11 回演奏会は、多くの観客をお迎えし、緊張のうちに開演し、感動のうちに終演しました。馬場先生はじめ多くの方々からの寄稿文には、公演への熱い思いが溢れています。老若男女が一堂に会した今回の演奏会は、歌の持つ力と素晴らしさを関係者全員が共感できた素晴らしい世界でした。ありがとうございました。（編集部：小泉）